

A 研究報告（概要一覧表）

平成 25 年 12 月 18 日
（平成 25 年 8 月～平成 25 年 10 月受理分）

研究報告のまとめ方について

- 1 平成 25 年 8 月 1 日～平成 25 年 10 月 31 日までに提出された感染症定期報告に含まれる研究報告（論文等）について、重複している分を除いた報告概要一覧表を作成した。
- 2 概要の後に、個別の研究報告の詳細を添付した。

感染症定期報告の報告状況(2013/8/1~2013/10/31)

【血液製剤、輸血の安全性に関する報告】

感染症	出典	概要	新規文献番号
<肝炎ウイルス>			
B型肝炎	Transfusion. 53(2013) 1393-1404	国内におけるB型肝炎ウイルス(HBV)感染供血者由来の血液製剤の感染性に関する報告。血液スクリーニングで実施されるHBV NATは、国内における輸血後HBV感染(TT-HBV)の予防に貢献しているが、それでも年間4~13件のTT-HBVが発生している。今回、TT-HBVが疑われた献血の保管検体のうち、HBc抗体低力価(S/CO 1.0以上12.0未満)かつHBs抗体200IU/L未満である4742人分の保管検体を個別NATにより解析したところ1.94%がウイルス血症であり、またHBc抗体価とウイルス血症の頻度は相関していないことが明らかとなった。この結果を受け、日本赤十字社は、HBc抗体低力価かつHBs抗体低値の血液をすべて廃棄することにより、最大限の安全策を講じることを選択した。	1
B型肝炎	Transfusion. 53(2013) 1405-1415	欧州(クロアチア、デンマーク、ドイツ、ポーランド、スペイン)におけるB型肝炎ウイルス(HBV)感染供血者由来の血液製剤の感染性に関する報告。HBV感染者のうち血中HBVが極めて少ないオカルトHBV感染者は、欧州において供血の1,000から50,000例に1例の割合で確認されている。今回、過去にオカルト期血液を受血した受血者と供血者のペア105組中45組(42.9%)で受血者のHBc抗体が陽性であり、供血者の抗体保有率を勘案すると補正感染率は28%であった。HBs抗体陰性供血者の場合における感染率は63%にのぼり、感染率は製剤の血漿含有量に関係していた。また、オカルト期血液のHBV-DNAの50%最小感染量は1049コピーと推定された。以上の結果は、疫学的状況に応じて、HBc抗体及びHBV NATスクリーニング等の安全対策を講じることが正当化されることを示している。	2
E型肝炎	第61回日本輸血・細胞治療学会総会 2013年5月16日-18日 0-2-4	国内における血液製剤輸血後6か月を経過してE型肝炎を発症した症例の報告。患者は20代女性であり、白血病の治療のため入院し、入院当日より輸血を受けていた。入院から約6ヶ月後肝機能障害を発現し、E型肝炎ウイルス(HEV)の検査を実施したところ陽性であった。患者に輸血された血液製剤についてHEV検査が行われた結果、FFP製剤の一つからHEV RNAが検出され、本症例は輸血用血液製剤によるHEV感染と特定された。HEV感染は一過性で終息することが多いが、一部症例で2~9週の潜伏期を経て肝炎を発症する。今回は免疫抑制状態が関与したためか、原因製剤輸血後6ヶ月を経て肝炎が発症したと考えられる。	3
<その他のウイルス>			
ウイルス感染	Transfusion. 53(2013) 1088-1094	ドイツにおけるサイトメガロウイルス(CMV)初感染のウインドウ期中の供血と輸血感染リスクに関する報告。直前の抗体検査(anti-CMV and IgG plus IgM test)時は陰性であり、35日以内に、スクリーニング検査でCMV抗体陽性となった供血者93例を対象に詳細調査(MEIA、Western blot 等)を行った。その結果、多くの供血者はスクリーニング検査の偽陽性結果によるものであり、セロコンバージョンが確認されたのは12例(13%)であった。また、直前の抗体検査陰性時の検体に比べて、初回抗体陽転時の検体中のCMV DNAの保有率及び濃度は高いことが明らかとなった。輸血感染CMVを防ぐためには、初回抗体陽転供血由来の血液製剤を使用しないことが特に有効であると考えられる。	4
パルボウイルス感染	Korean J Lab Med. 30(2010) 58-64	パルボウイルスB19(B19V)のDNAスクリーニング検査の必要性に関する報告。韓国において、2008年4月から7月までに血漿成分献血ドナーとなった供血者10,032例を対象に調査を実施した。その結果、B19V DNAが陽性であったのは0.1%(10/10,032)であり、B19V DNA陽性ドナー10例のうち9例が抗B19V抗体を有していた。さらに、無作為に抽出されたドナー928例について詳細に検討したところ、抗B19V抗体陽性率は60.1%(558/928)であった。韓国の献血者におけるB19V DNA陽性率は高くはなく、多くは抗B19V抗体を有していたことから、B19Vスクリーニング検査の実施は必ずしも必要とは考えられなかった。	5

ウイルス感染	Transfusion. 53(2013) 1421- 1428	新興感染症の輸血感染リスクを示すためのモデルの報告。欧州疾病予防管理センターは、新興感染症のアウトブレイク時に輸血感染のリスクを迅速に把握するため、European Up-Front Risk Assessment Tool(EUFRAT)を開発した。EUFRATは5つのステップ(①供血者が感染しているリスク、②感染血液が献血されるリスク、③感染した血液成分がリリースされるリスク、④最終的に血液製剤にウイルスが存在するリスク、⑤受血者に感染が伝播するリスク)から構成され、受血者に対するリスクの定量化及び安全性確保措置の効果の検証にも利用でき、公衆衛生上の施策の決定の助けとなる。	6
＜その他＞			
異型クロイツフェルト・ヤコブ病	http://ansm.sante.fr/S-informer/Information-s-de-securite-Retraits-de-lots-et-de-produits/Medicaments-Derives-du-Sang-LFB-Biomedicaments-Rappel-de-lots4	フランスにおける弧発性クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)に起因するアルブミン製剤回収の報告。LFB Biomedicament社は、仏医薬品・保健製品安全庁の要請で、弧発性CJDを発症した可能性のある患者の血漿から製造された血液由来製剤の特定ロットの回収を実施した。この回収は予防的措置であり、本件による弧発性CJD感染の報告はない。当該製剤の製造工程においては、プリオン除去に効果のある処理が含まれている。血液製剤による弧発性CJDの発症は理論上のリスクではあるが、証明され、特定されたリスクではないとされている。	7
異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20130513 .1746730	各国におけるウシ海綿状脳症(BSE)感染リスクに関する報告。国際獣疫事務局は2013年の総会において、イスラエル、イタリア、日本、オランダ、スロベニア及び米国は「無視できるBSE感染リスク」とであると認定した。	8
アメリカトリパノソーマ症	Transfusion. 53(2013) 1706- 1713	カナダ献血サービスにおけるTrypanosoma cruzi選択的検査導入に関する報告。2009年2月以降、すべての供血者に中南米滞在歴や自身の出身地及び母親・母方の祖母の出身地について問診し、リスク供血者からは血小板製剤の製造を中止している。今回、2010年5月以降のリスク供血者についてT. cruzi抗体検査を行い、陽性の供血者に関して遡及調査を実施した。その結果、供血者421,979人のうちリスク供血者は7,255人であり、そのうち13人がT. cruzi抗体陽性であった。また、13人のうち11人は中南米出身(パラグアイ9人、アルゼンチン2人)であった。遡及調査により以前の供血148件(176製剤が輸血された)が評価され、28%の受血者が検査を受けたがT. cruzi抗体陽性例は確認されなかった。	9
アメリカトリパノソーマ症	http://www.wnc.cdc.gov/eid/article/19/7/12-1576.htm	ベネズエラにおけるシャーガス病の集団感染の報告。2009年、バルガス州の小学校で生徒71例及び成人14例の集団感染が発生し、2010年、カラカスの食堂で33例の集団感染が発生した。2件の集団感染とも経口感染によるものと考えられている。今回、マイクロサテライト・タイピングによる解析を実施したところ、両事例で分離されたTrypanosoma cruziのヒト分離株の遺伝子配列は、T. cruzi非経口感染株の遺伝子配列とは明確に異なっていることが明らかとなった。この地区で見られる齧歯類及びサシガメによる非ヒト感染サイクルが原因と考えられ、2009年にバルガス州で発生した集団感染の原因は、同地域で汚染された食品であることが示唆された。	10

【その他の報告】

感染症	出典	概要	新規文献番号
<肝炎ウイルス>			
A型肝炎	Eurosurveillance. 18(2013)20518	イタリアにおけるA型肝炎の報告。2013年1月以降、北イタリアでA型肝炎の報告数が増加している。1月から3月までに352例の感染が報告されており、これは昨年と同期間に比べて70%の増加である。患者の多くが共通して摂取していた冷凍ミックスベリーからA型肝炎ウイルスが検出され、感染源と考えられている。	11
<その他のウイルス>			
HIV感染	Am J Infect Control. 41(2013)471-472	ブラジルにおける針刺し事故によるHIV感染の報告。40代の准看護師は、AIDSを発症していた患者の血糖値測定の際に親指を誤って刺し、わずかな出血を伴う傷を負った。すぐに洗浄し、曝露後2時間以内にジドブジン、ロピナビル、リトナビルによる曝露後予防措置を開始し、28日間継続した。しかし、受傷してから8ヶ月後にはHIV抗体陽性となった。原因患者のCD4数は低く(11/microL)、数週間で死亡したことから、高ウイルス量であった可能性があり、これが理由で曝露後予防措置が失敗したと考えられている。	12
インフルエンザ	Taiwan Centers for Disease Control Press Release, Jun 21, 2013	台湾におけるインフルエンザA(H6N1)型(以下、H6N1)感染の報告。2013年5月20日、台湾疾病管理センター(以下、Taiwan CDC)は、H6N1の初めてのヒト感染例の報告を受けたことを公表した。感染者は20歳の女性であり、軽度の肺炎症状を呈している。Taiwan CDCの検査機関による全ゲノム解析の結果、新種の鳥起源のウイルスであるH6N1と特定された。感染者と接触した36名に対して追跡調査が実施され、4名でインフルエンザ様の症状が確認されたが、感染は確認されなかった。Taiwan CDCは、インフルエンザへの監視を強化するとともに、インフルエンザ様の症状が現れた場合にはすぐに医療機関に受診することを市民に呼びかけた。	13
インフルエンザ	ProMED-mail 20130621.1785829	同上(文献13を情報提供する内容)	14
鳥インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_03_July13.pdf	各国における鳥インフルエンザ感染に関する報告。2013年7月4日の世界保健機関の報告によると、前回(2013年6月4日)以降、新たに3例の鳥インフルエンザA(H5N1)型の感染が報告されている。うち2例はカンボジアから、1例はインドネシアからの報告であり、3例中2例において家禽との接触が確認された。また、前回報告以降、中国から新たに1例の鳥インフルエンザA(H7N9)型感染が報告されている。今回の流行では133例の感染が報告され、うち43例が死亡、3例が現在も入院している。一方、台湾からは鳥インフルエンザA(H6N1)型の感染が1例報告されている。この患者に海外渡航歴はなく、発症前の家禽との接触も認められなかった。	15
鳥インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/influenza_h7n9/09_ReportWeb_H7N9Numb	中国におけるインフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染に関する報告。世界保健機関によると、2013年8月12日までに135件のH7N9感染が報告されている。地域別では、浙江省46件、上海34件、江蘇省27件、福建省5件、江西省5件、安徽省4件、河南省4件、湖南省3件、山東省2件、北京市2件、河北省1件、広東省1件及び台湾1件であった。また、H7N9の症状が発現した月別の件数は、2013年2月:2例、3月:30例、4月:88例、5月:3例、6月:0例、7月:2例、不明:10件であった。	16
鳥インフルエンザ	N Engl J Med. (in press) April 24, 2013	中国におけるインフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)感染に関する報告。2013年4月17日までに中国当局へ報告されたH7N9感染確定症例82例について実地調査を行った。その結果、患者の年齢中央値は63歳(2-89歳)であり、73%が男性であり、84%が都市部の生活者であった。17例が死亡し、60例が重篤な状態となった。発症から死亡までの期間(中央値)は11日間であった。患者と接触した1689例のうち1251例について追跡調査を実施したが、H7N9の感染確定例はなかった。2つの家族クラスターにおいて、発端症例以外では家禽や動物との接触・曝露がなかったことから、H7N9がヒトからヒトへ感染した可能性が否定できない。	17
鳥インフルエンザ	Nature. 25(2013)500-503	中国で流行する鳥インフルエンザA(H7N9)型(以下、H7N9)の生物学的特徴に関する報告。H7N9の受容体結合能について解析した結果、H7N9はヒト型及びトリ型受容体の双方に対する結合能を有することが明らかとなった。また、H7N9はヒトの気管及び肺の細胞において効率的に増殖することも確認された。これらの特徴から、H7N9のヒトへの感染性は高いと考えられ、パンデミックの可能性を考慮して、集中的な監視が必要であると考えられた。	18

ウエスト ナイ ルウイ ルス感 染	MMWR. 62(2013)5 13-517	米国における2012年のウエストナイルウイルス(WNV)及び他のアルボウイルス疾患の発生状況に関する報告。米国疾病管理予防センターの発表によると、米国1,020郡から5,780例のアルボウイルス疾患(デング熱を除く。)が報告され、そのうちWNV感染は5,674症例(98%)を占め、2003年以降最大の報告数となった。WNV感染のうち、5,199例(92%)が5-7月に発症し、2,873例(51%)が神経侵襲性疾患の症状を呈し、3,491(62%)が入院し、286例(5%)が死亡した。	19
マラリ ア	Clin Microbiol. 51(2013)1 439-1444	インドにおける無症候性マラリアに関する報告。無症候性感染者集団を縮小できればマラリア感染リスクを低減できる。今回、西ベンガル州プルリア県の住人1,040人を対象にスクリーニング検査を実施した結果、8.4%が熱帯熱マラリア原虫に感染していたにもかかわらず臨床症状がみられなかった。陽性者にはアルテミシニンをベースとした治療を行ったところ、有効率は97%であった。マラリア原虫の遺伝子を解析したところ、スルファドキシシン-ピリメタミン耐性の増強を示唆する変異が認められた。この問題の全容を把握するためには、インドの他の地域でも同様の研究を行う必要がある。	20
狂犬病	ProMED- mail 20130706 .1810755	インドにおける狂犬病の報告。インドMadhya Pradesh州において、狂犬病のイヌに咬まれた6歳男児が3日後に狂犬病を発症し、死亡した。狂犬病を発症した後、男児は5人の家族を噛んだ。家族の一人によると、男児に噛まれた後、5名全員が狂犬病予防ワクチンを接種したが、うち1名が狂犬病の兆候を示している。	21
ウイル ス感 染	ProMED- mail 20130518 .1721873	中東で流行する新規コロナウイルス(MERS-CoV)感染に関する報告。2013年5月18日の世界保健機関による発表によると、2012年4月以降の累計でMERS-CoV感染確定例は計40例であり、うち20例が死亡した。中東(ヨルダン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦及びカタール)並びに欧州(フランス、ドイツ及び英国)において患者が確認された。また、ヒトからヒトへ感染した事例が確認されている。このウイルスの感染経路は不明であるが、動物からヒトへ感染すると考えられている。	22
ウイル ス感 染	Lancet Infect Dis. (online publicatio n) Aug. 09, 2013	中東で流行する新規コロナウイルス(MERS-CoV)の宿主動物に関する報告。MERS-CoV感染者において、発症前にヒトコブラクダ又はヤギとの接触歴を有する事例が報告されている。今回、中東(オマーン)及び他所(スペイン、オランダ、チリ)の動物から血清を入手し、特異的抗体の有無を検査した。その結果、オマーンのラクダの100%(50/50)及びスペインのラクダの14%(15/105)において、特異的抗体が検出された。MERS-CoV又は関連するウイルスは、ラクダ集団内で循環していることが示唆された。	23
ウイル ス感 染	ProMED- mail 20130416 .1650747	オーストラリアにおけるバーマフォレストウイルス(BFV)感染の報告。2013年1月以降、クイーンズランド州でBFV感染の報告が増加している。2012年全体の報告数94件と比較して、2013年1月から3月までに41件が報告された。市議会は、蚊媒介性疾患であるBFV感染の拡大を防ぐため、庭を清掃し、水たまりをなくすよう市民に対し警告した。BFV感染は夏期の多雨とともに増加する。ブリスベン地域では2013年1月以降、平年の約二倍の降雨量が記録されていた。	24
ウイル ス感 染	Emerg Infect Dis. 19(2013)1 487-1489	マラウイの対麻痺患者から検出された新種のcyclovirusの報告。マラウイにおいて、2010年から2011年の間に原因不明の対麻痺と診断された患者12例から血清及び脳脊髄液のサンプルを採取し解析した結果、新種のcyclovirusが検出された。このウイルスは、58例の患者から採取された血清標本54検体及び脳脊髄液標本40検体のうち、それぞれ15%及び10%から検出された。cyclovirusの病原性や疫学的特徴を明らかにするためにはさらに研究が必要である。	25

ウイルス感染	mBio. 4(2013)1- 10	ベトナムの急性中枢神経系感染症患者から検出された新種のcyclovirusの報告。ベトナムにおいて、病原因子不明の急性中枢神経系感染症を生じた患者2例の脳脊髄液から新種のcyclovirusが検出され、cyclovirus-Vietnam (CyC-VN)と命名された。CyC-VNは、原因不明の同感染症を生じたベトナム人患者の脳脊髄液標本の4% (642件中26件)から検出され、非感染性の神経障害患者の脳脊髄液標本(122件中0件)からは検出されなかった。患者の暮らす地域のブタ及び家禽の糞便調査の結果から、約半数がCyC-VNを保有していることが確認され、これらの動物が感染源であると示唆された。	26
ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA. 110(2013) 10264- 10269	中国の非A-E型肝炎患者から分離されたパルボウイルス様の新規ウイルスに関する報告。1999年から2007年までに重慶で収集された、肝炎患者(A、B、C、D及びE型のいずれでもない)の血清標本92検体について解析した。その結果、コウモリのサーコウイルス及びブタのパルボウイルスに類似した新規ウイルス(NIH-CQV)が分離された。PCR法によると、患者の70%(63/90例)からNIH-CQV遺伝子が検出されたが、健常人の検体からは検出されなかった。免疫ブロット法によると、患者では84%がIgG陽性、31%がIgM陽性であったが、健常人では78%がIgG陽性、IgMは全て陰性であった。NIH-CQVの病因学上の役割についてはさらに研究が必要であるが、非A-E型肝炎患者集団でパルボウイルス様ウイルスの保有率が高いことが示された。	27
ウイルス感染	ProMED-mail 20130602 .1750302	同上(文献27を情報提供する内容)	28
<その他>			
ボレリア感染	平成25年9月3日付け健感発0903第1号厚生労働省健康局結核感染症課長通知	国内におけるボレリア感染の報告及び病原体診断検査に関する協力依頼。2013年9月3日、厚生労働省健康局は、ボレリアによる回帰熱(四類感染症)の症例を国内で2例確認したことを報告した。ライム病の診断で行われる血清中の抗ボレリア抗体の検出検査のみでは、ライム病と回帰熱を鑑別することが困難であるため、2症例とも当初はライム病と診断されていた。このため、回帰熱又はライム病を疑う症例については、回帰熱・ライム病両方の検査を実施するよう協力依頼がなされた。なお、検査については、国立感染症研究所細菌第一部において実施することが可能である。	29
リーシュマニア症	Eurosurveillance. 25(2013)2 0539	欧州におけるリーシュマニア症に関する報告。これまで熱帯地域の疾患と認識されていたリーシュマニア症は、既に南欧で風土病となっている。2003年から2008年までに、欧州9カ国において毎年410から620例の内臓リーシュマニア症(VL)が発生していると推定された。また、人獣共通感染症である皮膚リーシュマニア症はVL流行地域で発生するが、Leishmania infantumによる皮膚症状は軽症であるため過小評価される傾向にある。既に流行している地域ではさらなる拡大の可能性もあるため、サーベイランスを慎重に行い、国内外における届出システムを整備する必要がある。	30
結核	ProMED-mail 20130809 .1871322	英国におけるウシ結核の報告。53歳の食肉処理業に従事する男性がウシ結核に感染し、死亡した。この患者は感染したウシの血液や尿などのエアロゾルを介して感染した可能性が指摘されている。結核に感染したウシが屠殺されているにもかかわらず、屠体から発生するエアロゾルを阻止するための処置がなされていないことが懸念される。	31

B 個別症例報告概要

- 総括一覧表
- 報告リスト

平成25年12月18日
(平成25年8月～平成25年10月受理分)

個別症例報告のまとめ方について

個別症例報告が添付されているもののうち、個別症例報告の重複を除いたものを一覧表の後に添付した（国内症例については、資料3において集積報告を行っているため、添付していない）。

感染症発生症例一覧

第14回	番号	感染症の種類		発現時期	転帰	出典	区分	備考
		器官別大分類	基本語					
	14-1	感染症および寄生虫症	C型肝炎	不明	不明	症例報告	外国製品	報告日：2013年4月26日 薬別番号：C-13000003 製剤名不明の第VIII因子製剤を投与された症例。 MedDRA/1 Version 16.0

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正措置報告
23-Aug-13	130417	バクスター株式会社	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えエチヤニズハムスター卵巣細胞株	該当なし	有効成分	なし	あり	なし

番号	感染症の種類		発現国	性別	年齢(歳)	発現時期(年/月/日)	転帰	出典	区分	備考		
	器官別大分類	基本語								職別番号	報告日	MedDRA(Ver.)
第21回 21-1	10021881/ 感染症および寄生虫症 /Infections and infestations	10000665/ 後天性免疫不全症候群 /Acquired immunodeficiency syndrome	ドイツ	男性	23歳	不明	死亡	症例報告	外国製品	12000048	2013/3/15	15.1
第21回 21-1	10021881/ 感染症および寄生虫症 /Infections and infestations	10019744/ C型肝炎 /Hepatitis C	ドイツ	男性	23歳	1990/11/02	死亡	症例報告	外国製品	12000048	2013/3/15	15.1
第21回 21-2	10021881/ 感染症および寄生虫症 /Infections and infestations	10019744/ C型肝炎 /Hepatitis C	イギリス	男性	小児	不明	未回復	症例報告	外国製品	12000049	2013/3/27	15.1
第21回 21-3	10021881/ 感染症および寄生虫症 /Infections and infestations	10019744/ C型肝炎 /Hepatitis C	アメリカ	男性	不明	不明	不明	症例報告	外国製品	13000003	2013/4/26	16.0
第21回 21-1	10022891/ 臨床検査 /Investigations	10020189/ H-IV検査陽性 /HIV test positive	ドイツ	男性	23歳	1984	死亡	症例報告	外国製品	12000048	2013/3/15	15.1

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正措置報告
18-Sep-13	130512	バクスター株式会社	乾燥濃縮人血液凝固第VIII因子	乾燥人血液凝固第VIII因子	ヒト血漿	米国	有効成分	あり	あり	なし
18-Sep-13	130513	バクスター株式会社	乾燥濃縮人血液凝固第VIII因子	人血清アルブミン	ヒト血漿	米国	添加物	あり	あり	なし

感染症発生症例一覽

番号	感染症の種類		発現国	性別	年齢	発現時期	転帰	出典	区分	備考
	器官別大分類	基本語								
第21回	21-1	C型肝炎	アメリカ	男性	9歳	1986年	回復	症例報告	外国製品	報告日：2013年6月13日 識別番号：C-13000008 MedDRA/J Version 16.0

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正措置報告
20-Sep-13	130524	パクスター株式会社	乾燥人血液凝固因子抗原活性複合体	乾燥人血液凝固因子抗原活性複合体	ヒト血漿	米国	有効成分	あり	なし	なし

番号	感染症の種類		発現国	性別	年齢	発現時期	転帰	出典	区分	備考
	器官別大分類	基本語								
第21回	21-1	C型肝炎および寄生虫症	日本	男	40歳代	不明	不明	症例報告	当該製品	完了報告：2013年7月4日 識別番号：A-13000021

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正措置報告
27-Sep-13	130581	一般社団法人日本血液製剤機構	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅳ因子	血液凝固第Ⅳ因子	ヒト血液	日本	有効成分	あり	あり	なし

感染症発生症例一覧

番号	感染症の種類		発生日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正措置報告	備考
	器官別大分類	基本語												
1	臨床検査	E型肝炎抗体	2-Oct-13	130589	CSLベーリン グ株式会社	ファイブリノゲン加第 XIII因子 ファイブリ ノゲン配合剤	ファイブリノゲン	ヒト血液	米国、ドイツ、 オーストリア	有効成分	あり	あり	なし	識別番号3-13000018 報告日:2013年8月26日
2	感染症および寄生虫症	C型肝炎	2-Oct-13	130590	CSLベーリン グ株式会社	ファイブリノゲン加第 XIII因子 ファイブリノゲン配合 剤	トロンピン	ヒト血液	米国、ドイツ、 オーストリア	有効成分	あり	あり	なし	識別番号1-12000165 報告日:2013年3月15日 報告対象外報告:2013年4月5日
第21回			2-Oct-13	130591	CSLベーリン グ株式会社	ファイブリノゲン加第 XIII因子 ファイブリノゲン配合 剤	アンチトロピ ン	ヒト血液	米国、ドイツ、 オーストリア	製造工程	あり	あり	なし	